**最終プレスリリース****TICAD IV、期待に十分応えられず  
G8 洞爺湖サミットに向けて、日本が負った大きな宿題**

2008年5月30日、横浜

今回の第四回アフリカ開発会議（TICAD IV）を通じて日本およびアフリカ各国が抱える課題が繰り返し明らかになりました。それは、**指導力と行動の欠如**です。市民社会は、アフリカの貧困問題の解決につながる各国の行動と説明責任を求め続けます。アフリカ向け援助の倍増は正しい方向への一歩として歓迎すべきです。しかしながら、日本が今回示した全体的なコミットメントは、期待を裏切るものであったと言わざるを得ません。GNI比0.7%をODAに振り分けるとする目標の達成は、G8がいまだ果たしていない約束の履行において、日本が指導性を発揮するにあたって、自ら避けてはいけない目標です。

**アフリカで頭をもたげつつある破滅的な食料危機**は、緊急の行動と長期的な対策の両方を必要としています。つまり、貧しい人々の苦難を緩和し、援助と貿易ルールの公正化によって、この危機の原因となっている構造的要因を取り除くことです。また、先物穀物市場への投機マネーの流入や、バリュー・チェーンにおける巨大アグリビジネスの支配を抑えるといったことも必要です。これらの行動なくしては、アフリカが再び紛争に陥り、人命が喪失され、TICAD IVがこれまで目指してきた開発への前進も失われかねません。

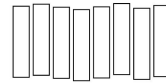
**TICAD IV NGO ネットワーク（TNnet）の富田杏子**

「経済成長を追求するとしても、それは貧困削減のアジェンダが主導し、2015年までにミレニアム開発目標を達成するための具体的行動に裏打ちされたものでなければなりません」。

**社会的正義と平等を伴わない成長は持続的ではありません**。現在、多くの人々（特に女性や少女）が貧しい状態であり、社会的に排除され、脆弱な立場に追いやられています。TICAD IVは技術的な問題だけでなく、貧困層が裨益するよう、政治的意思を確立し、説明責任に対して積極的であるべきです。インフラ開発を追求する際には、本当に現地コミュニティや地域内の開発ニーズにこたえるものである必要があります。

TICAD IV 行動計画は、人間の尊厳、平和、よい統治（グッド・ガバナンス）および民主主義をその中心的な課題に据える必要があります。**民主主義と人間の安全保障**はアフリカ大陸において、未だ脆弱な平和を強固なものにしていく上で、また貧困を削減し、成長を実現するうえでも、最も重要な基準となります。アフリカが「慈善と援助」から「貿易と開発」に移行するためには、絶対的貧困を終わらせ、平等で、参加型かつ民主的なガバナンス制度を国家と国際社会のレベルにおいて確立するというコミットメントに基づく新しいパートナーシップを必要とします。

**気候変動**について、市民社会は平等と正義に基づいた対策を求めます。温室効果ガス排出国が自国の排出による影響への対策を強化する必要があります。日本がTICAD IVを通して先進諸国を主導し、クール・アースを現実のものとするためには、日本自身が積極的な中期的排出削減目標を掲げる必要があります。これなくしては、いかなる適応努力も失敗に終わります。適応には、既存のODA目標に対して追加的な資金が提供される必要があります。TICAD IVで日本が誇らしげに示した巨額の支援策も、アフリカ向けのものには微々たるものにとどまっており、日本の責任に応じた額に比べて大きく下回っているため、失望をもたらしています。市民社会はまた、気候変



動対策資金に借款を活用することは貧しい人々を二重に苦しめることになるため、明確な反対の意思を表明します。また、いかなる適応資金も、影響を受ける国々の参画を確保するために、国連の適応基金を通じて拠出されるべきであり、ドナー主導の新たなメカニズムであってはなりません。

アフリカはこれまで、大きな前進を成し遂げてきましたが、まだ十分ではありません。アフリカの政府は TICAD IV において、アフリカが絶対的貧困から解放され、MDGs を達成するという共通のビジョンを持ち、自らのコミットメントを果たさなければなりません。アフリカ連合とそのメカニズムを活用した、大陸レベルでの共同行動が不可欠です。アフリカ諸国政府は、6月の AU サミットにおいて、TICAD IV で示された機会を展望に基づいて行動へのコミットメントを交わす必要があります。その際に、市場を機能させるための良好な環境整備と、人権と社会正義の実現のバランスをとる必要があります。また、官民連携が貧困層にとって利益をもたらすよう、アフリカ諸国政府がビジョンと指導力を発揮しなければなりません。

#### アフリカ市民委員会 ギュスターブ・アサー

「日本とアフリカの政府は、TICAD IV フォローアップ・メカニズムにおいて市民社会に明確で機構的な役割を与え、市民社会の参画に対するコミットメントを実現することが求められます。市民社会参画を保障することは、TICAD IV プロセスの説明責任を強化する上で中心的な役割を担います」。

以上

#### 本件に関するお問い合わせは、こちらまでお願いいたします：

TICAD IV・NGO ネットワーク (TNnet)

(担当) 谷村 美能里 (ワールド・ビジョン・ジャパン) 携帯 090-6537-8098

(事務局) 住所：169-0051 新宿区西早稲田 1-21-1 早大西早稲田ビル 7F

電話：03-5286-8261

2008 年 G8 サミット NGO フォーラム

(担当) 稲場 雅紀 (アフリカ日本協議会) 携帯 090-1264-8110

(事務局) 住所：169-0051 新宿区西早稲田 2-3-18 アバコ 5F

電話：03-5292-29101